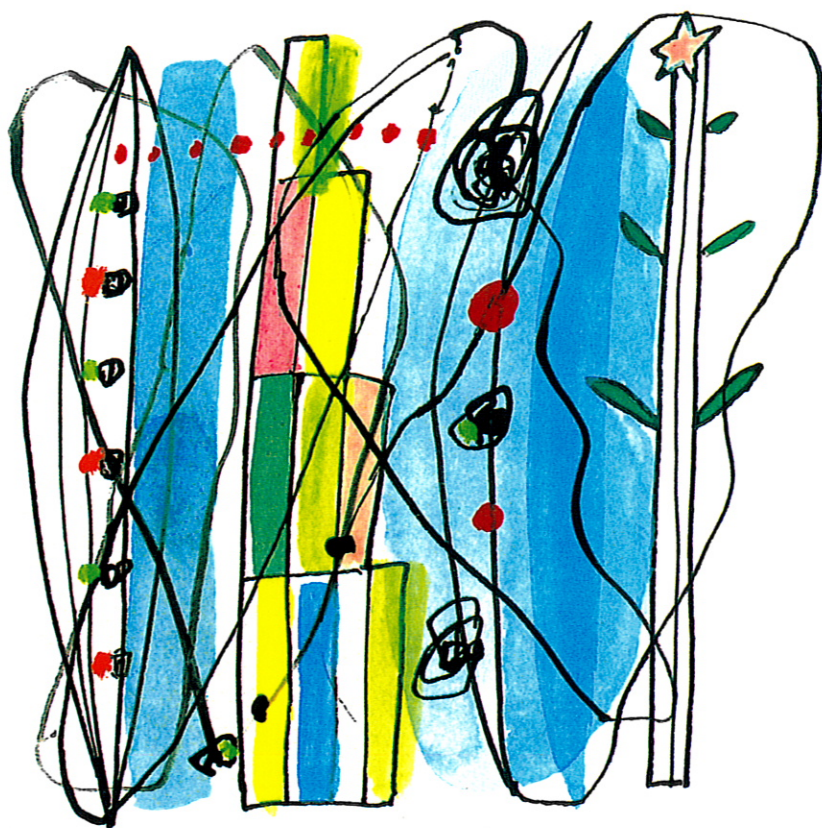


保育者になりたい！



採用試験 対策BOOK

隊長



あなたの夢を
かなえるための
情報がいっぱい

園選びから履歴書を書くまで
筆記試験、実技試験、面接試験、
採用試験の実施状況、
試験官はここを見ている！
先輩からのアドバイスetc.

4 履歴書の書き方 自己アピールのあれこれ

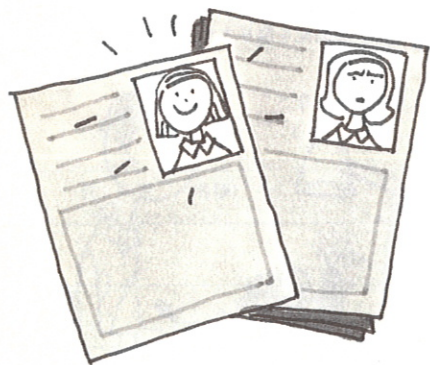
写真が大事、好意的な目を

履歴書の中で、まず目がいくところはどこでしょう？ 学歴？ 長所・短所欄？ 志望動機？ ひょっとして健康診断書の身長・体重欄？ いえいえ、実は写真なのです。

写真も立派な自己アピールです。

この写真から受けるイメージは、意外と大きいものです。実際の人物に会う前に、「なんか暗い人だな」とか「化粧が派手な人だな」と思われては、やはり損ですよ。

写真からでも、「この学生はどのように子どもたちとかかわってくれるのかな？」「どんな感じの人だろう？」というイメージは湧いてきます。もちろん、実際に会っている話をしてから判断するわけですが、意外と会う前のイメージというのは、潜在意識の中に残っているものです。



では、どんな写真が良い印象を与えるのでしょうか？

僕たちは、子どもたちに接している先生の笑顔を毎日見ているわけです。当然、それに

近いものを感じさせる写真の方がいいと思います。

履歴書の写真の基本は、「まじめな顔」となっていますが、中にはそれを通り越して「何かイヤなことでもあったのか？ 何を怒っているの？」と思われる写真もあるのです。

では、どうすればいいのでしょうか？

保育実習で、出会った子どもたちの笑顔を思い出してみてください。レンズの中にその子がいると思って見つめてください。すると、目の表情が変わってきます。顔の印象は、目で決まります。笑っているわけではないのに目が笑っているのです。目が好意的なのです。一目惚れって、本当にあるのですよ。目は全てを物語ってしまうのです。

そういえば、「身長・体重は本当のことを記入するの？」と先生たちに聞いてみたら、「本当のことなんか記入するはずないですよ」「お医者さんの健康診断でも、聞かされたから3キロぐらい減らして答えちゃいました、ハハハ！」と笑っておりました。正直な先生たちです。

履歴書には、記入すべきところがたくさんあります。

「学歴・職歴」とか「免許・資格」などは、書き方が決まってしまうので、個性なんか出せません。ウソを書くわけにもいかないし…。しかし、多くの履歴書には、「長所・短所」をはじめ、「私の特徴」「志望動機」などを書く欄があります。ここで思いっきり自己アピールをしましょう。

もし、園側が履歴書の形式を指定しないのであれば、「志望動機」の欄をはじめ、自己アピールできる部分は大きいものの方がよいと思います。そして、自分の経験や思いを交

えて書き込みましょう。

試験官も履歴書を見たうえで面接時に質問をするわけです。こちらから質問する材料を多く与えておくというのは得策です。

書いてあることが少なかったり、決まり文句ばかりで内容がない場合など、思わぬ質問をされる心配もあります。もちろん、ダラダラと長く書けばいいというものではありません。最初に思いつくままに書いてみて、何回か読み直しながら半分ぐらいに縮めてみましょう。学校指定や市販で適当な履歴書がないのでしたら、パソコンで自分で作ってもよいと思いますよ。

レイアウト済みの文書ファイルがあれば、罫線を少しいじって「志望動機」欄などの自己アピールできる部分をを増やしてやるだけです。これだけでも、他の人とはずいぶん違う印象を与られます。履歴書は園側が見るものです。園側さえよければ問題ありません。ただし、本文は手書きの方がよいと思います。この業界はまだまだ保守的なので、ワープロ打ちは良い印象を与えないことが多いと思います。

長所・短所は素直に書く

子どもは興味さえ湧けばどんなことにも全力でぶつかります。そんな子どもたちとかかわる仕事をしようと思っているのでしたら、たかが履歴書と思わないでください。本当に「保育者になりたい！」という気持ちがあるのでしたら全力で書き上げましょう。履歴書は面接や実技試験と違い、100%自分で管理できます。ここで手を抜いては、後の勝負を捨てているのと同じです。もちろん履歴書の判断は合否の一部かもしれませんが、そんな一部にも全力を尽くせないようでは、子どもたちとかかわっていく資格はありません。

自分で自分のことを書くことって難しいですよ。あまりに露骨だと嫌味ですし、謙虚すぎても問題です。ただ、この頃は、「長所



・短所」をはじめ、変なことが書いてある履歴書はほとんどありません。学校の先生も目を通していらっしゃるでしょうし、参考文例もたくさん出ています。

しかし、変なものがない反面、「おや！」と感じるものや印象に残る文章も少なくなってきました。似たような文章が続いてしまうこともあります。

やはり、誠実な感じを受けるものの方がよいでしょう。

素直に書くことが一番だと思います。その方が、実際に会ったときのギャップも少ないと思います。

「明るく朗らかです」と書いてある人が、とてもそうとは見えないこともありますし、「何事にも前向きにがんばります」と書いてある人が、後ろ向きに人生を歩んできたのではないかとと思われるときもあります。

「好奇心旺盛」「明朗快活」「質実剛健」「積極的な性格」「判断力・決断力がある」等々、決まり文句もありますが、あまりにこのような表現ばかりでは、印象には残りません。

・人付き合いが好きなので、初対面の人でも気軽に話すことができます。

公園でも、そこにいる子どもたちとすぐに仲良くなり、遊んでしまいます。

子ども同士のケンカも何回か仲裁したことがあります。

・人からはよく協調性があると言われます。大学時代も、みんなで話し合いながら物事を進めることが好きでした。学生生活最後の文化祭は、今でも自分の大切な思い出となっています。

・物事を悪い方向に考えず、常に前向きに考える性格です。友達から「あなたの一言で救われた」と言われたときは、とてもうれしかったです。保育実習でも、いつも前向きな子どもたちと波長が合いました。

等々、実際に経験したことをもとに作ってみましょう。

長所欄に比べて、短所欄は難しいですね。「なし」とも書けないし、かといって書きすぎると変だし。

(一度「なし」って書かれた履歴書がありました。よほどの自信過剰か、自分が見えていないかのどちらかととられてしまいます)

自分が考えている長所・短所と他人が受ける印象とは違うことがあります。何人かの仲の良い友達に書いてもらい、それを参考にすることもよいかもかもしれません。自分では気づかないことが発見できるかもしれませんよ。ただし、良い友達を選んでね、時には自信をなくすようなことを書くやつもいますから…。

実は、長所と短所は、対になっていることが多いのです。表裏一体なのです。

ですから、長所と短所がなんの関連もないというのはおかしな話です。

長所 いつも明るく、人の気持ちをよく考えてから行動する。

短所 物事への取り組みが遅い。

長所 失敗もプラス思考に変えて、次々に新しいやり方で挑戦する努力家です。

短所 あきらめが早い。

長所 周りの意見を聞いて物事を的確に判断



でき、落ち着いて行動できる。

短所 自分の中に悩みを貯め込んでしまう。

長所 責任感が強く、何事にも前向きに努力する。

短所 責任を一人で背負い込んでしまう。などです。

この辺のことを考えて、長所を思いきって書いてから短所を書いてみましょう。もちろん上記の「短所」のようにストレートに表現する必要はありません。「人の気持ちを考えすぎて、物事への取り組みが遅くなる場合があります」程度でよいでしょう。

もし、面接で短所のことを聞かれても心配はいりません。短所のことを答えているつもりでも、いつの間にか長所の話にもっていきはざす。だって表裏一体なのですから。

志望動機は自分が感じたままを

「志望動機」の欄も、重要です。

素直に自分の感じたままを書けばいいと思います。保育者になりたい動機を書くわけですから、試験官にとっても大切なチェックポイントです。どうしても、「保育者になりたい」という動機なので、似たような文章も多くなってしまいます。実際に保育実習などで体験したこと、自分が経験したことな

どを書く方が、相手には伝わると思います。そうした経験の中で感じたこと(子どもたちの楽しさやすばらしさ、繊細さやたくましさなど)をまずは素直に書いてみましょう。

そして後日にもう一度読み直してみてください。書いているときには気づかなかったわかりづらい部分や思い込み、独りよがりの部分が見えてきます。

また、子どもって良い部分だけではなく、時には残酷だったり、相手のことなんか考えないで行動したりしますよね。そういったことに会ったときに「自分はどう思ったか、どうしたかったのか」なんてことも書いてあると「むむ！」って思いますよ。

そんな経験をした中で、「子どもたちと共に成長したい！」って殺し文句も出てきますし。



書くべき欄の分量にもよりますが、空白はできるだけない方がいいでしょう

大切な動機が「たったこれだけ？」と最初から思われても損です。

- ・小さいときからのあこがれの職業でした。
- ・子どもが大好きなので、子どもとかかわる仕事に就きたかった。
- ・園の方針が自分と合っていたから。
- ・資格を生かしたいから。

等々、いろいろあると思いますが、これらとともに、実体験がまじえて書いてあった方が心に届くと思います。

・友達ができなくて寂しかったときに、先生に優しく接してもらい、園も好きになりました。私もそんな先生になりたいと思い志望しました。

・実習で出会った子どもたちの生き生きとした表情が忘れられません。その中で子どもたちの様々な創造する姿や工夫する姿に出会いました。これらのすばらしさを子どもと共に味わっていきたく思ったのが動機です。

・臆病で、なかなか自分を出せないでいる私をいつも励ましてくれたのが先生でした。ほんのちょっとしたことでもほめてくれて、おかげで自己表現の楽しさがわかりました。自己表現が下手な子や自信のない子がいたら、今度は私が励ましてあげたいと思います。

もちろんこれらは単なる例です。今までの自分の体験を、これからの自分を書きましょう。そして次のような言葉が好きな園長先生もいます。

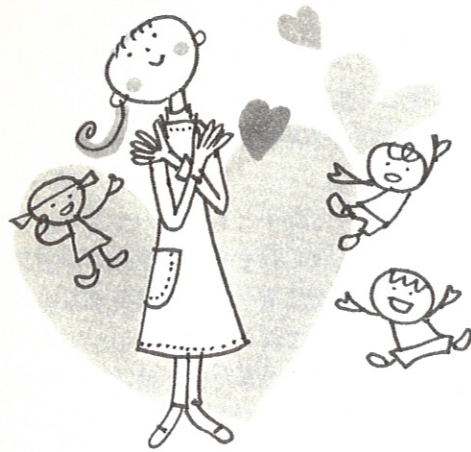
- ・保育者として全力を尽くす覚悟です！
- ・意欲ややる気は誰にも負けません！
- ・子どもたちにできることは何でもやります！
- ・120%がんばります！
- ・この仕事に賭けてみたいです。

ただし、これらは好き嫌いがありますので、よく考えてから使った方がよいでしょう。

個性的な文章が減ってきている中で、「おや！」と思って実際に会ったら「おお！」ってことができました。

当園にも体験学習で中学生たちがやっていますが、そのときの自己紹介の文章なのです。

- ・子どもは好きなのですが、引っ込み思案なのでうまく遊べるかどうか心配です。
- ・体を動かすことが大好きです。でも頭はあまり動きません。



・母園なので、昔の自分を思い出しながら遊びたいです。

そして、実際に本人を見れば、まさにその通りで、子どもを前に地藏様になっていたりと、本当に体だけはよく動くが、何も考えてない子、そして、先生に「この子たち少しも言うこと聞いてくれない」と言えば、先生が「あなたの時よりよっぽどましよ」と一日中先生と漫才をしていた子など、爆笑ものでした。

でも、僕はとっても良い印象をこの子たちには持ちました。保育者に必要なのは、「素直な心、前向きな心」だと思っています。

そして、そんな「心」をこの中学生たちは持っていました。(本当にそれだけでしたが…)

ですから、いくら知識や技術・経験を身につけてもこの「素直な心、前向きな心」を持ち合わせていない先生は、良い先生にはなれません。

知識・技術・経験は確かに大切なものですが、子どもたちと接していくときに、まず必要なものは「心」だと思います。

最後は熱意

履歴書を書く上でのいろいろテクニックはあると思いますが、やはり最後は「熱意」だと思います

子どもたちとかかわる仕事がしたいという「熱意」だと思います。そんな「熱意」が伝わる履歴書にしましょう。そして、書き終わったら、声に出して読んでみてください。文章のつながり具合や意味が不明瞭なところがわかります。

それから最後に、ていねいに書いてください。丸文字は印象がよくありません。そして、誤字脱字にも気をつけてください。これらも「熱意」のひとつですから。

(愛知県豊橋市・明照保育園 中島章裕)

私はこんなこと書きました!(新任保育者に聞いた私のいいところ)

A・Kさん(幼稚園勤務)

まず、長所は「他人に対する感謝の気持ちや思いやりをいつも忘れないこと」

短所は「物ごとを深く考えすぎるところがあるが、保育の現場ではとっさの判断も必要になると思うので、自分の行動に自信を持って判断ができるように努力している」です。

M・Sさん(保育園勤務)

私は、何事にも一生懸命あきらめずに取り組むことができると思います。しかし夢中になりすぎると、周りの様子が見えなくなってしまうことがあるので、落ち着いて見るように心がけています。

R・Aさん(保育園勤務)

長所:何事にも積極的に取り組み、最後まで責任を持って仕事をやり遂げることができる。

短所:物事を深く考えすぎて結論がでないことがある。(優柔不断)

自己アピール:私はこつこつと努力するタイプで、与えられた仕事は最後まで責任を持ってやり遂げることができ、また仕事を与えられるのを待つだけでなく、自分からすすんで仕事を探し、常に今自分にできることはないか考えることができます。

自分の良いところを書きますが、とって自慢したり自画自賛で終わっては、何の意味もありません。よいところ、わかっている欠点をさりげなく盛り込んで書くといいと思います。

自己紹介書

〇〇短期大学	幼児教育	学科	コース
免許・検定・資格等			
平成13年	3月	幼稚園教諭二種免許状取得見込み	
平成13年	3月	保育士資格取得見込み	
年	月		
年	月		
年	月		
趣味・娯楽・特技等 趣味・ピアノ(ティズニーの曲や童謡を弾くこと) 特技・歌うこと、工作(バースデーカードの製作やペンダント作り等)			
授業以外で力を注いだこと ・学習ボランティア (児童看護施設で週一回、二年継続) ・ピアノ		特に力を注いだ科目 鈴木ゼミナール「子どもの表現活動の研究」 器楽I・II(ピアノ、声楽)	
大学生生活を通じて得たこと 同じ幼児教育を学ぶ友人との日々の話し合いや、先生方の講義の中から、自分以外の様々な考え方があることを学びました。また、それによって自分の考えをより深めていくことができ、実習では実際に保育現場に出ることで、子どもたちの活動の様子を知ることでもできました。 学習ボランティアでは、自分が相手に対して誠実で思いやりを持って扱えば、必ず心を開いてくれ、私のことを必要としてくれることを知りました。			
私の特徴 物ごとを深く考えすぎるところがありますが、保育の現場ではとっさの判断も必要になると思うので、自分の行動に自信を持って判断ができるように努力しております。また、私は他人に対する感謝の気持ちや思いやりをいつも忘れないように心がけております。この二つのことを子どもたちにも伝えていきたいと思っております。			
志望動機 私は音楽を通して子どもの感性を育てていきたいと考えております。 こちらの園ではリトミックを取り入れていると聞き、自分の目指す保育内容と共通するものが感じられたので志望いたしました。			